

令和元年度  
おおぞら保育園  
保育園の自己評価

評価責任者

おおぞら保育園

園長 廣部 信隆

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされている。

このことを踏まえ、おおぞら保育園では保育の質の向上を図るために自己評価を実施する。

評価については以下のような基準で評価を行う。

◎ → よくできている                      ○ → ほぼできている                      △ → 努力が必要

## 1、人権の尊重

子どもの人権条約の遵守、ならびに子どもの最善の利益を追求する。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	○	子どもの人権に十分配慮すると共に、子ども、一人ひとりの人格を尊重していくことの必要性を職員間で共通の意識もち取り組んでいくよう心がけている。 保育士の何気ない言葉がけ、行為が人権擁護で配慮を欠くにつながるため職員間での意見交換や助言ができるように職員間の関係性の構築に努めている。
(2) 性差への先入観による固定的な観念や役割分業を植え付けないように配慮している。	○	性差への先入観を植えつける行為、言葉がけをしない等偏見を持たせないよう十分配慮し保育にあたっている。性差に限らず、児童それぞれの育ちの把握に努め、大人側の都合で児童の育ち、行動などを見ていくことことの無いよう配慮している。

## 2、説明責任

保護者や地域の子育て家庭に、保育園の役割や保育内容について情報提供をする。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 理念や基本方針が利用者に周知されている。	△	保育理念や保育内容は文章などで周知しているが文章に偏ること児童の生活が十分な可視化になっていない。課題に対しては画像などを利用し日々の保育、児童の取り組みの様子を理解できるような工夫をした取り組みを始めた。 ※ドキュメンテーションの掲示、公開等
(2) 保護者が意見を述べやすい体制が確保されている。	△	保護者との信頼関係を築く中で話しやすい、相談しやすい環境を工夫することが必要である。 保護者の悩み、育児での困り感等、話しやすい雰囲気を作ることを心掛け、穏やかに会話ができるような配慮が必要である。

### 3、情報保護

保育にあたり知り得た園児、保護者の情報は適正に取り扱い、保護しなくてはならない。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 利用者のプライバシー保護に関する規定、マニュアルを整備している。	△	個人情報に関するマニュアルを作成、園内で共有する事項は部外に持ち出さない、話さない等情報の漏漏に取り組んでいる。
(2) 遵守すべき法令など正しく理解し取り組みを行っている。	△	管理者と保育従事者との法令理解には差があること否めない。 継続して保育制度、防火防災、健康管理については保育にあたる中で必要な事項について、理解や積極的な学びが必要である。

### 4、苦情処理

保護者からの信頼を高め、保育提供の質の向上に向けた取り組みの一環として、保護者からの苦情や意見等に対して、迅速に対応を進める。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し迅速に対応している。	△	保護者からの意見、要望は真摯に受け止め、迅速に対応することに心掛けていく、情報の共有、問題の原因、見直し、解決（対処）方法を明確にすることに努めている。
(2) 苦情解決の仕組みが確立され、十分に周知、機能されている。	○	保育重要事項にて苦情解決の仕組みを周知している。 担当保育士のみで問題を抱えるのではなく上職が介入（相談、直接対応）して対応することに努めている。

## 5、保育内容

一人ひとりの子どもの置かれている状態及び家庭、地域社会における生活の実態を把握するとともに子どもを暖かく受容し、適切な保護を行い、子どもが安心感と信頼感をもって活動できるようにする。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 保育計画が保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向などを考慮して作成されている。	○	保育計画(全体的な計画)月案等を保育内容に反映し子ども一人、ひとりの育ちを保障できるように努めている。 園の方針転換等保護者の対応変化を必要とする事項については理解していただけるよう丁寧に対応するよう努めている。
(2) 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき指導計画を改定している。	△	月々の保育計画、日々の日誌、各年齢の会議などで振り返り保育への課題を出している。保育内容(方法)の変更などについては個人的な判断で行わず、報告、相談、協議などを通じて実施する必要がある評価については行った実践について微視的な振り返りが必要である。
(3) 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。	○	子どもを理解していることで適正なかかわりができると考えている。加えて適正な保育内容が立案されることを意識し子どもの理解に努めていくことが今後も課題である。
(4) 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	△	環境を作った後の検証が弱く、評価から新たな試みや工夫がなされていない。 環境構成工夫への意識は継続しているので具現化できるよう園長、主任の積極的な関りも不可欠である。
(5) 基本的な生活習慣や生理的現象に関しては一人ひとりの子どもの状況に対応している。	△	忍耐強くかかわり、子どもの要求に応じて、子どもの行動に寄り添うことが必須だが活動(慌ただしい日課)などにより十分な配慮がなされない場面もある。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(6) 身近な自然や社会と関われるような取り組みがなされている。	○	野菜の栽培（さつまいも、じゃがいも、とまと）に加え収穫体験などを経験している。 試行錯誤であるものの栽培の知識、取り組みの計画性を更に持つことが必要である。
(7) さまざまな表現活動が体験できるように配慮されている。	△	年齢に応じた表現活動ができる環境設定の工夫が必要 玩具の適正や絵画（描画 制作）、わらべうた等年齢に応じた（認識、思考、技術）を再考して保育内容に位置づけることが必要。
(8) 遊びや生活を通じて、人間関係が育つよう配慮している。	△	生活の中でできるだけ子ども達に考え、考えさせていけるよう配慮している。 課題としては子どもまかせにせず保育士の導きや適正な援助もその都度、考え対応することが必要。
(9) 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	△	一人、ひとりの生活リズムに合わせ、ゆったりとした保育を心がけているが保育士の連携、意思疎通で子ども間のトラブル（かみつきのひっかき）も減ってきている。
(7) 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	△	長時間（時間外）との連携または担当者の子どもの理解、援助など担当保育士はその周知、理解に工夫が必要である。 通常保育からの大きな変化がないよう取り組みや環境構成の整備に課題がある。時間外保育士との連携も意識し連絡事項の共有を図ることが必要。

## 6、要保護児童への対応

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報速やかに園長に届くようになっている。	○	虐待について（類似ケース）については迅速に対応するよう努めている。 朝の視診、日中の観察などを通じて子どもの異常、サインを見落とさないように意識し職員間での情報共有も行っている。
(2) 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について市関係機関、児童相談所等に通告、照合する体制が整っている。	○	迅速に対応している。疑われるケース以前に心配性のある子ども、保護者についても行政担当課へ周知し定期的に情報を上げている。 保育園のみで対応せず行政関係機関と積極的に連携関係を築いている。

## 7、特別な支援を要する子どもへの対応

インクルージョンを基本に保護者や職員間で共通の認識を持ち、巡回発達相談や専門の機関と連携しながら子どもの発達を保障する。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 環境が整備され、保育内容や方法に配慮がみられる。	○	個々に合った対応を考えて保育を行っている。 保護者との連携、面談を定期的実施、市、発達センターとの連携で施設巡回を実施し専門家らの具体的な支援、援助のアドバイスを受け保育に反映している。

## 8、在宅子育て家庭への支援

多様な子育てニーズや地域住民が求める援助を把握し、それに基づいた事業・取り組みを実施する。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 地域の福祉ニーズを把握している。	△	地域関係機関と連携を構築している段階で利用者のニーズに応じた支援活動を考え取り組んでいくことが望まれる。
(2) 地域の福祉ニーズに基づく事業・取り組みが行われている。	△	支援センター、一時保育など園でできる最小限の取り組みにとどまる。運営に関する事情（運営予算、人員配置、地域の児童数）など今後、精査し事業内容を計画する必要がある。

## 10、健康支援

子どもの健康状態、発達状態を把握する。感染症、疾病への対応を適切に行い、保護者、職員にその対応、予防を周知する。必要に応じて関係機関を含めた情報を共有する。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 保健、健康マニュアルを作成し子ども一人ひとりの健康状態に対応している。	◎	日々の健康については看護師を中心に微視的に把握記録をとり一人ひとりの健康把握に努めている。
(2) 健康診断の結果について、保護者や職員に周知し保育に反映させてる。	◎	年2回（内科）1回（歯科）検診を実施、結果については保護者に通知している。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(3) 感染症発生時に対応できるマニュアルを作成している。発生状況を保護者に周知している。	○	感染症が発症した場合は迅速に保護者に周知し啓発している。日頃より感染症についての情報収集し感染拡大防止に努めている。新型コロナウイルス感染予防対策については行政の指導に準じ対応している

## 1 1、環境、衛生管理

施設的环境を常に適切な状態に保持するとともに施設内外の設備、用具などの衛生管理に努める。子ども及び職員が手洗い等により清潔を保とうとするとともに施設内外の保健的環境の維持向上に努める。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	△	保育室の環境整備は各担任保育士に委ねているが整理整頓などが十分でない保育室もある。保育室に限らず園庭の環境整備への意識、取り組みが必要
(2) 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。	○	子ども達が安心して安全に過ごせるような環境づくりに取り組んでいるが実施の経過、評価などがおろそかになっている。適切な評価をしてより良い環境を作ることが必要。

## 1 2、保護者の支援

保護者との信頼関係を築き、子どもの最善の利益を考慮した保育ができるよう、育児相談や懇談会、家庭連絡を充実する。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談を行っている。子どもの発達や育児等について懇談会などの行い、保護者との共通理解を得る機会を設けている。	○	懇談会、個人面談、保育参観など子どもの具体的成長を理解できるような機会を設けている。 配慮が必要とされる家庭、児童については個別に相談や面談を実施している。 新型コロナウイルス感染症対策により保護者との情報交換などが希薄になることを予測し新たな情報共有の仕組みの構築が必要である。
(2) 家庭の状況や保護者との情報交換の内容など必要に応じて記録されている。	○	配慮、支援が必要な事項については記録に残すと共に会議等で職員が共有できるようにしている。

### 13、研修計画

保育の質向上のために目標を定め、組織として目的意識をもった研修計画を策定し取り組み実施する。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 職員の教育、研修に関する基本姿勢が明示されている。	○	職員研修 園内外について年間の計画を作成 キャリア研修については該当者に通知、実施している。 研修での学びや振り返りをする機会を意識して作る必要がある
(2) 個別の職員に対して組織としての教育、研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	○	勤務年数に応じた研修計画に基づき研修を実施している。専門研修に積極的に参加できるよう研修代替等の人的配慮をしている。
(3) 定期的に個別の教育、研修計画の評価、見直しを行っている。	△	職員間で研修報告をする等の発表の機会を設け積極的な研修の振り返り、保育への反映が必要である。

### 14、小学校との連携

子どもの連続的な発達などを考慮して、互いの理解を深めるようにするとともに、子どもが就学に期待感を持ち積極性を持って生活できるようにする。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 小学校との連携、話し合い、就学への引継ぎ等の連携体制が整備されている。 授業参観（保育参観）や行事及び課題授業など交流を行っている	○	保育園、幼稚園、小学校との連携については市内で協議会を設置運営している。 地域との関係が密接なところとは授業、保育参観を実施し併せて情報交換を含めた協議を行っている。 運動会、教育集会なども積極的に参加している。

## 15、地域との交流

保育園が地域社会の一員としての社会的役割を果たすと共に、地域の協力の中で子どもが育つような取り組みを行う。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 地域との関係が適切に保たれている。	△	地域自治会の夏祭り、盆踊りに参加するなど地域との関係も構築しているが防災、防犯上の地域連携の構築が課題である。
(2) 保育園が有する機能を地域に還元している。	○	地域支援センター 園庭解放等利用希望者へは積極的に開放している。 ホームページや市担当課窓口案内を置くなど広報をしている。
(3) 関係機関等との連携が適切に行われている。	○	関係機関との連携や報告は定期的に行っている。 市内認可保育園とも情報交換も行い、各保育、市内の保育事情を精査し市担当課に改善や要望を伝え保育行政、保育運営の向上に努めている。
(4) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	△	保育園、幼稚園小学校連絡協議会等を通じて連携協議しているものの慣例的な部分もある。 保育所を適正に運営することが地域福祉の維持につながる。地域福祉が向上するための協議が今後、必要とされる。
(5) 地域の福祉ニーズに基づく事業、活動が行われている。	△	引きこもり家庭や積極的な利用ができない家庭については行政側の協力で養育支援訪問を通じて保育園の利用につながる仕組みの構築が必要。
(6) ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にして体制を確立している。	△	ボランティア活動については保健衛生、安全保障などについて不確定な部分があり今後、受け入れについてガイドライン等の作成、明示が必要である。

## 16、食育

食事は子どもの身体的成長の基本であり、心豊かに食を楽しみ、自然の恵みに感謝し、子どもの命を守る大切なものである。年齢にあった調理方法や栄養のバランスはもとより、食習慣の確立、栄養指導、心の健康づくりという目的に応じて一人ひとりの子どもに配慮する。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 食育を通じて、子ども達が食事を楽しむことができるように工夫している。	○	現場、保育士については各年齢食育計画を作成し取り組んでいる。 給食調理提供者との食育の理解、連携に更に努力が必要。
(2) 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	△	食育等の取り組みについては情報を発信している。 特に乳児については喫食状況をみて細やかに保護者に状況を伝えている。試食会の実施はなく、積極的な給食レシピの公開などもない新たな情報は発信の仕組みの構築が望まれる。
(3) 食物アレルギーは個別に配慮して提供している。	○	アレルギー対象児童については状態の把握からはじまり医師の所見、支持、家庭での摂食状況の把握、具体的な食の提供方法など保護者の理解を求めている。尚且つ安全に提供できる動線の確保に努めている。

## 17、安全対策、事故防止

災害や事故発生に備え日常点検や避難訓練を実施するとともに外部からの不審者の侵入防止のための措置や訓練を行い不測の事態に備える。保育中の事故防止のため保育所内外の安全点検に努め、安全対策のために職場の共通理解や体制づくりを図る。

小分類	評価	評価の根拠、具体的事例及び改善方法
(1) 消防、防災、防犯のマニュアルが作成され定期的な訓練を実施し災害時の対応を意識した取り組みを行う。	○	法令で定められた訓練を実施している。 救急救命についての元年5月に保育士職が受講する防犯(不審者)についての訓練実施は無い前項に加え実施が必要である。 各マニュアル個々の役割分担の把握することが必要
(2) 事故防止等のチェックリスト等があり事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている。	△	保育施設の安全管理チェックリストはあるもののチェックが慣例的になっている。個々の安全への創意工夫や意識の向上が望まれる。

## 総合評価

子ども達の最善の利益を追求し日々の子ども達の生活を支えている。毎年、保育運営を振り返る機会をいただいているが顕著に結果が目に見え大きな変化がみえないのも保育の営みの特徴と言える。子ども達が安全、安心に生活ができる。尚且つ情緒が安定し穏やかな生活を送れることを願っている。

子ども達の命を守り、生活を共にするとは相応のいくつもの細かい視点に目が行き届き、具体的な行動、アプローチが必要とされる。社会事情の変化、保護者の就労など大きな変化により疲弊しきった保育士が多くいる中で当園の保育士は保育の楽しさを実感できる機会を持てる方々が増えている。苦労も多い職業ではあるが子ども達の生活を支える仕事に肯定感を持てるような保育士になれるような環境を継続してつくる努力を怠ってはならない。

前年度の評価でも述べましたが「保育は人」であり子ども達の情緒穏やかな生活を送れる環境は人で決まるとも言える。子ども達にかかわる大人が穏やかな心情を持ち、子ども達、それぞれの育ちに応じたかかわりを適正にできることが望まれる。気ぜわしい中でもゆとりも持てなければ最善の利益を追求していくことは程遠い保育になっていく、「保育は人」と言っていますがすべてに置いてパーフェクトであってほしいと望んではいません。子ども達のことを思い、考え、知り、理解し生活を支えてあげられることを目標に置き保育を営んでいける素地を持てることを望んでいます。

先に取り上げた評価項目のひとつ、ひとつも子ども達のこと、子ども達をとりまく環境を徹視的に考え、日々の保育を丁寧に行っていくことで結果的により良い評価に結びついていくと考えます。

現場側に加え主任、園長も課題をわかりやすく導き出し、共に考え取り組んでいく姿勢を持つことが不可欠であります。

少しずつ前進、向上する思いを当園に従事する者、皆が持っていることが明るい兆しである。今後の取り組みでは、評価でできること、できていることを風化させないこと、努力が必要なことはそれぞれが意識すること、定期的に機会を持ちその取り組みを振り返り評価すること、「言いつばなし、やりつばなし」からの脱却を意識し実のなる取り組みにしていくよう、取り組んでいくことが必須である。

文責 園長 廣部信隆